

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	建築構法・木質構造	
科目基礎情報							
科目番号		51126		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		建築学科		対象学年	1		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		「建築構法」(市ヶ谷出版社)／適宜配布する資料					
担当教員		竹下 純治					
到達目標							
(ア)建築物の仕組みおよび部材のおさまりを把握している。 (イ)部材の名称およびその定義を正確に覚えている。 (ウ)各種構造形式の原理、特徴および構造について説明できる。 (エ)木造建築の耐久性、耐震・耐風設計について説明できる。 (オ)住宅などの品質確保に関する法律の概要を知っている。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)		建築物の仕組みおよび部材のおさまりをほぼ把握している。		建築物の仕組みおよび部材のおさまりを把握している。		建築物の仕組みおよび部材のおさまりを把握していない。	
評価項目(イ)		部材の名称およびその定義を正確に覚えている。		部材の名称およびその定義を覚えている。		部材の名称およびその定義を覚えていない。	
評価項目(ウ)		各種構造形式の原理、特徴および構造について正確に説明できる。		各種構造形式の原理、特徴および構造について説明できる。		各種構造形式の原理、特徴および構造について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B2 建築分野の必要な基礎的知識や技術を修得する。 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要		建築物は様々な自然環境や社会環境の中に存在し、人を包み、その生活を支えるために、各種の材料を用いてつくられている。本講義では、様々な建築物に使われている材料や組み立て方などの構法とその成り立ちについて学ぶ。また、建築の専門教育を学ぶ初期段階の講義であるため、建築を学ぶための基礎固めとして、建築物を構成する用語について学ぶ。					
授業の進め方・方法		基本的には授業で説明した建築物を構成する用語について、翌週の授業開始時に小テストを行い理解度を確認する。従って、毎授業後に復習を行うこと。 10週目以降には、重要ポイントを抜粋した課題を行うことにより、知識の定着をはかり理解を深める。					
注意点		授業で学んだ構法を的確に理解していくために、日常生活の中で実際の建築物や建築現場を意識して観察すること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名							
選択必修6							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
必修修							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	建築構法とは			建築物の仕組みを理解できる	
		2週	建築物への荷重・外力			外力の区別、作用の時間・方向を説明できる	
		3週	鉄骨造			上記(ア) - (ウ)	
		4週	鉄筋コンクリート造			上記(ア) - (ウ)	
		5週	補強組積造・組積造			上記(ア) - (ウ)	
		6週	その他コンクリート造			上記(ア) - (ウ)	
		7週	木造			上記(ア) - (ウ)	
		8週	地業・基礎、屋根			上記(ア) - (ウ)	
	2ndQ	9週	壁			上記(ア) - (ウ)	
		10週	開口部・建具			上記(ア) - (ウ)	
		11週	床・階段			上記(ア) - (ウ)	
		12週	天井・納まり			上記(ア) - (ウ)	
		13週	木造建築の耐久性、耐震・耐風設			上記(エ)	
		14週	住宅などの品質確保に関する法律			上記(オ)	
		15週	前期のまとめ				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	構造	建築構造の成り立ちを説明できる。		4	前1
				建築構造(W造、RC造、S造、SRC造など)の分類ができる。		4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9
				骨組構造物に作用する荷重の種類について説明できる。		4	
				木構造の特徴・構造形式について説明できる。		4	
				木材の接合について説明できる。		4	

				基礎、軸組み、小屋組み、床組み、階段、開口部などの木造建築の構法を説明できる。	4	前10,前11,前12,前13,前14
評価割合						
	定期試験		課題		小テスト	合計
総合評価割合		70	10		20	100
基礎的能力		70	10		20	100